授業参観の意義

「授業参観による学びの軌跡」に示した、参観者、教員、双方の生の声からは、それぞれがどのように授業参観を受けとめ、学んできたのかが読み取れたのではないかと思います。ここでは、参観者、教員の双方にとっての授業参観の意義、利点についてあらためてまとめてみたいと思います。

参観者にとっての利点

授業参観を通して、現場の教員が培ってきた教授方法、工夫やコツについて、学生の反応をも含めたかたちで目の当たりにできることは、かけがえのない経験です。参観者からは次のような声が寄せられています。

> *———こうした様々な工夫は、先生が長年のご経験の中から少しずつ蓄積されてきたものだと思う。これから教員として仕事をしていく中で、自分自身も自分なりの工夫を積み重ねていきたいと思ったとともに、なかなか自力で1年目から気づくことはむずかしい点も多くあると考えられるため、先人の知恵を直接的に学ぶことのできる授業参観の意義を実感した。*

また、参観者には、自分の専門分野以外の授業も積極的に参観するように呼びかけています。全く異なる分野の授業は、そもそも内容が理解できないのではないかと躊躇する人も少なくはないのですが、一度参観を行ってみると、その意義が実感できるようです。

> *———講義の工夫点は分野を超えたものであることがわかり、知らない分野のものも含めて時間のゆるす限り多くの参観に参加したいと思った。同時に、分野ごとの特徴やそれぞれの講義自体の目標によって異なる講義の工夫も当然あると思うので、学んだものをそのまま受け身的に取り入れるのではなく、自分の分野だったら、〇〇の講義だったらどうか?適切か、アレンジが必要なのか?といった視点をもちながら、参観に当たりたいと思った。*

加えて、自分が教えている学生は、自分以外の授業で何を学んでいるのだろう？という視点で授業参観に参加する人もいます。大学における学生の経験を大きな視野でとらえようと自ら目的を定めて参観が行われています。

———農学研究科のＮさんは「自分が教えている農学部の学生が教養時代に何を勉強してきたのか知りたくて、授業の見学を希望した」とおっしゃっていた。学生理解のための授業見学というのもあるのだな、と新鮮だった。

我々の取組みが大切にしている授業参観後のディスカッションについては、こんな声が寄せられています。異なる分野、経験を持ち寄って行うディスカッションだからこそ、新たな視点や気づきが得られるという利点があります。

———授業後のディスカッションで印象的だったのは、参加者によって気になった点、質問内容が全く異なる点である。「わたしはそれは全然気にしていなかった」と思わされる質問がいくつもあった。すでに非常勤経験がある人や授業をもっている人はイントロダクションが長くなりがちだったり時間配分に苦労しがちな自分の体験を踏まえて質問していた。また、ほかにも専門などによっても異なるのだろうが、ひとつの授業、同じ90分であっても、それを見る視点の多様さを感じた。

そして、授業参観、教員とのディスカッションで得られるのは、授業の方法に関する情報だけではありません。教育観、授業観、学習観など、自身が今後大学教員として、どのように教育と向き合っていくのかについてのヒントを得ている様子も観察されています。

———私は従来、「安定した授業」をイメージすると、固定化された形式を思い出してきたが、幾度の授業参観を経験しながら改めて感じているのは、方法や内容における絶え間ない変化こそ良い授業のための必須要素であるということである。長年にわたる試行錯誤の上で積み上げてきた要領を惜しみなくシェアしてくれた教員の方々に感謝する。

教員にとっての利点

授業参観をされる側の教員は、主に次に示す３つの利点を感じていることが、インタビューの結果から明らかになりました。

- ◆ ふり返りの機会が得られる
- ◆ 違う視点からのコメントがもらえる
- ◆ 自信につながる

ふり返りの機会が得られる

授業参観後のディスカッションの機会は、全ての教員のみなさんが口をそろえて有益だったと評価しています。参観者の素朴な質問に答えていくことで、自身の授業をふりかえり、それぞれの活動の意図について、意識的に見直す機会になっているとの声が寄せられています。このディスカッションでのやりとりをきっかけにして、次年度の授業計画を修正・変更したり、学生への声掛けなどを工夫したという報告もありました。ベテランの教員のみなさんにとっても、授業参観をきっかけとしてリフレクションが起こり、さらなる授業の改善につながっているというのは、うれしい効果です。

違う視点からのコメントがもらえる

多様な分野の参観者からのコメントは、教員にとっても新鮮な驚きや気づきとともに受け入れられているようです。自身が所属している学会や、同じ専門分野の同僚と教育や授業について話す機会からは得られないような、ハッとする指摘や、これまでに考えたことのなかったような質問に対応することで、長年やってきた授業に対しても、新たな気づきが得られることがとても好意的に受けとめられています。その分野の背景や、常識を必ずしも共有していないからこそ生まれる疑問や問いに触れることで、基本に立ち返り、「何故自分はこの方法で授業をおこなっているのだろうか」という根本を問い直す機会になっているという声が寄せられています。

自信につながる

参観者とのディスカッションや、リフレクティブジャーナルにより、「こんなところを真似したい」、「これはぜひ取り入れたい」、「私も学生にこんなふうに取組んでもらえるような課題を設定したい」というコメントが寄せられることで、教員にとっての自信につながるとの声が寄せられています。教員のみなさんにとっては、自分の授業についてコメントをもらえる機会として、学生による授業評価アンケートがありますが、その自由記述欄に寄せられる内容は、たいていがネガティブなことだったり、苦情だったりする傾向にあり、うまくいっている部分を認めてくれたり、褒めてくれたりする機会はあまりないとのことです。これに対し、授業参観後のディスカッションでは「こういう工夫が新鮮だった」、「学生がこのワークを楽しんでいた」といった長所や、ポジティブな面についても指摘がある点が有意義だと評価されています。

コーディネーターとして嬉しいことのひとつとして、授業参観に協力いただいている教員のみなさんから「私も他の先生の授業を参観したい」という声があがりはじめていることもご紹介したいと思います。これを受けて2015年からは、授業参観に協力いただいている教員のみなさ

んにも参観側としての参加を募っており、毎年５名程度の教員が参観に加わっています。こうした循環が起こり始めているのは、とてもうれしいことです。授業参観される側としての経験をもとに「私も参観したい」と思ってもらえた、ということは、ご自身が経験した授業参観に意義を見出してもらえたことの証明になるといえます。

さて、読者のみなさん、このブックレットを読んで大学における授業参観についてどんな感想を持ったでしょうか。案外、win-win で楽しそうな取組みだと感じてもらえたのではないでしょうか。本書を通じて、学内外のみなさんに「ちょっと授業参観をやってみようかな」と思ってもらえたらうれしいです。授業参観のノウハウや導入に関して、ご興味があれば、ぜひ東北大学 高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センターまでお問い合わせください。

あなたも授業参観してみませんか？
参観する側でも、参観される側でも、ご参加お待ちしています！

コラム⑤　来たれ授業参観志願者！

おかげさまで20名の協力教員を得て実現している授業参観の取組みですが、教員の異動や退職もあることから、継続的な協力者の確保・拡充は大きな課題です。本ブックレットを読んで、少しでも授業参観に興味を持った方、こんな取組みだったら受け入れてもいいかな、と思ってくださった教員のみなさん、ぜひご協力ください！私たちは常時お問合せを受け付けています。「説明だけでも聞いてみようかな…」ということでもかまいません。ぜひご連絡ください。

東北大学 高度教養教育・学生支援機構　大学教育支援センター
大学教員準備プログラム・新任教員プログラム担当
Mail: tu-pffp@ihe.tohoku.ac.jp

授業を見せるのはまだ勘弁してほしいけど、参観する側は経験してみたいな、という方は、ぜひ大学教員準備プログラム、新任教員プログラムへの参加をご検討ください。詳しくは大学教育支援センターのウェブサイトをご参照ください。

東北大学 高度教養教育・学生支援機構　大学教育支援センター
ウェブサイト
http://www.ihe.tohoku.ac.jp/CPD/